

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	①自己肯定感を高める学習活動と教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を実現するための教育課程編成に取り組む。 ②「わかった・できた・つながった」を生徒が実感できる評価・授業の在り方の再整備を進める。	①ICT機器を活用しながら生徒が主体的に学習に取り組む態度を育む授業を展開する。 ②一人ひとりの自己肯定感を高める授業を検討し実践する。	①研修会や授業見学を通じてICT機器の効果的な活用や主体的に学びに向かう姿勢の見取り方について共有する。 ②他者と協働しながら理解を深め、「わかった・できた・つながった」を実感できる授業の実践を進め、共有する。	①職員が効果的なICT機器の活用を図り、学びに向かう力・姿勢の見取りについて、教職員の理解が深まったか。 ②生徒による授業評価の「わかった・できた・つながった」に関する回答が、すべての教科で90%以上「当てはまる」になったか。	①職員の自己評価アンケート結果では、昨年度より理解が深まり、授業での実践も増加した。 ②第2回生徒による授業評価の結果では、ひとつの教科を除いて、「授業中にわかった・できた」を実感することができた」と回答した割合が90%を超えた。	①ICT機器の活用について継続的に実践の共有を図り、授業での活用につなげる必要がある。 ②他者と協働したり、ICT機器を活用したりすることにより、知識・理解を深める授業を実践する。	①研修会などの実施を通じて、ICT機器の活用に取り組む雰囲気醸成されていることがうかがえる。苦労もあると思うが、引き続きICTの活用に取り組んで頂きたい。 ②授業アンケートから、授業を着実に理解し、自己肯定感を高めている様子を見取することができる。	①ICTを授業に活用する契機とするため、定期的にワーキンググループによる研修会を実施した。ICTを活用して、生徒から意見を引き出す等の試みも授業で見られるようになった。生徒の主体的に学習に取り組む態度を育むため、引き続き教授法について検討を進めるとともに、共通認識を持って授業を行うことが必要である。 ②90%を超える生徒が「授業中にわかった・できた」を実感することができた」と回答した。今後も「わかった・できた・つながった」を実感できる生徒を増やすため、他者との協働や自己肯定感を育む授業を推進する必要がある。	①引き続きICTワーキンググループを設置し、ICTの利活用について検討を進める。また、研究授業や授業見学週間などをおして授業方法についての検討を進める。 ②学びを深めるため、ICT機器を利用した他者との協働の方法について検討を進める。また、「めいほうメソッド」の周知と活用を図る。
2	生徒指導・支援	①生徒の規範意識を定着させ、社会の一員としての自覚と自己有用感を涵養する。 ②「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制により、生徒が自己の課題に気づき、その解決に向けて行動(相談)する力を育む。 ③学校行事や部活動等を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を育む。	①②豊かな社会性の育成を推進し、偏見・差別等の防止に向けた指導と課題解決に向け、チームで連携した取組を行う。 ③学校行事を通じて生徒が主体的、協働的に活動できるように環境を整える。部活動を通じて、生徒が自己肯定感を高め、学校の活性化を図る。	①多様な環境にある生徒を把握し、規範意識の醸成に向けて継続的な指導を進める。 ②SC・SSW・外部機関を活用した組織的な支援体制を構築する。 ③学校行事や部活動において、生徒が個々に役割を果たし、充実し満足感が得られる環境づくりを進める。	①各種講演会を実施し、生徒に継続的な指導ができたか。 ②相談体制の構築により不登校生徒が10%程度減少できたか。 ③生徒会執行部やフロンティアだけでなく、生徒全体が学校行事や運営に関わることができたか。部活動加入率が30%に達したか。	①外部講師による講演会や動画視聴等を通して生徒の規範意識を高めることができた。 ②SC・SSWの組織的な活用、サポートドックの導入など相談体制を強化することができた。1年次の不登校生徒が10%程度減少した。 ③球技大会の種目を増やし、生徒がより学校行事を楽しみ、運営する機会を増やすことができた。部活動加入率は24%から27%に上昇した。	①講師の精選に努め、実際に生徒が体験できる講演会等を増やす必要がある。 ②不登校生徒への支援を組織的に継続して行う。また、多様な環境にある生徒の問題行動について丁寧に対応していく。 ③目標の30%を目指して今後生徒への部活動への関心を高める取り組みを考えていく。	①②豊かな社会性の育成を推進する視点から、サポートドックなど心の問題への対応がなされているのが良かった。生徒を支えるため地域の人材を活用するのも良いのではないかと。 ③球技大会の実施など、学校行事が充実しつつある。部活動は大会実績を残しており、日々練習や活動に励んだ成果が結果として表れている。部活動加入率を上げるために、生徒に対して部活動に参加する雰囲気づくりが一層必要なのではないかと。	①②外部講師による講演会を計画的に実施し、生徒の規範意識向上の一助とすることができた。その内容については、本校生徒の実情にあわせる必要がある。 ②SCやSSWの組織的な活用について、職員の理解が進んでいる。また、サポートドックを導入し、生徒相談等に活かすことができた。サポートドックの回答内容のチェックについてはさらに検討をする必要がある。 ③コロナ禍以前の通常の文化祭を実施し、生徒が主体的に学校行事に参加できる場を作ることができた。今後も、より多くの生徒が参加できる場を作ることが必要である。また、全国大会出場等の成果はあったものの、全体として部活動加入率は伸び悩んだので、関心を高める工夫が必要である。	①生徒の意識を高めるために各種講演会の時期や内容について検討する。 ②SCやSSWの組織的な活用をすすめる。教育相談体制を充実させる。長期休業前後の面談を確実に実施するとともに、サポートドックの効果的な活用方法について検討を進める。 ③生徒の活動意欲を高め、達成感を得られるような学校行事を計画する。部活動体験期間を利用して生徒に部活動に参加するよう働きかける。
3	進路指導・支援	○社会生活実践力を育成し、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①自己理解を深め、他者への理解も深めることを通して、生徒が自己の役割や責任を認識し、社会とつながり生きる力を身につけるための支援を行う。 ②生徒が主体的に将来を考え、	①「総合的な探究の時間」を中心とした学習活動や様々な体験活動を通して、社会や働くことの意味などに対する理解を深めさせる。 ②生徒一人ひとりの進路実現	①各年次において「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施することができたか。進路未定者が減少したか。 ②生徒のニーズに合った情報提供	①各年次とも「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施し、社会や職業、働くことの意味などに対する理解を深めさせた。 ②生徒一人ひとりのニーズに応じた情報を適切	①勤労観、労働観をより効果的に育成するため、「総合的な探究の時間」と他教科との連携を強化する。 ②基礎力診断テスト、レディネステストの活用	①「総合的な探究の時間」を中心に、充実した進路に向けたプログラムができていく。それとともに、生徒の進路実現に向けて、生徒自身の自己理解が重要なのではないかと。 ②進路については、	①各年次でキャリア教育を計画的に実施することができた。「仕事のまなび場」「インターンシップ」等の活動を通して、生徒に社会や職業、働くことへの理解を深めさせる機会を設けることが必要である。 ②各年次で進路ガイダンスや基礎力診断テスト、レディネステスト等を実	①キャリア教育の教材及び進路ガイダンスの内容について検討を進める。また、インターンシップや「仕事のまなび場」等の参加を推進する。 ②キャリアプログラムを計画的に実施するとともに、そのプログ

			個々の関心や能力、適性に応じた進路を実現するための支援を行う。	のために、個別面談やガイダンス等とおして適切な情報を提供する。	を、適切な時期に行うことができたか。	な時期に提供し、進路実現のための支援を行った。	法を見直し、生徒がより主体的に進路設計をできるようにする。	自分の得意な分野を周りから認めてもらい、自分でも見つけて、進路の実現につなげていけたら、良いのではないか。	施し、進路活動に役立てた。生徒の進路実現に役立てるため、その活用方法について検討する必要がある。	ラムについて検討する。また、本校生徒の実態に合わせて基礎力診断テストを進路適性検査に変更する。
4	地域等との協働	①地域や外部の諸機関等との連携を図り、地域とともに学びあう教育活動・学校運営を行う。  ②教科指導等における連携・協働を積極的に推進し、生徒の成長の見守りと学校に対する理解と信頼を深める。	①地域や外部機関と連携した教育活動を拡充を図る。  ②HPを通じて本校の教育活動を紹介し、学校に対する信頼を深める。	①ボランティア活動、外部と連携した進路ガイダンス等を実施する。  ②地域清掃や地域と連携した活動等を実施するとともに活動についてHPで紹介し、学校に対する理解を得る。	①地域や外部との連携による教育活動を実施し、生徒が参加する機会を増やすことができたか。  ②教育活動により本校について地域の方に理解を得られたか。HPのリニューアルが図られたか。	①駅前清掃等の活動に生徒・職員が参加した。また、あーすぷらざの方のご協力を得て、外国につながるある生徒対象の進路ガイダンスを実施した。  ②2～4 年次生が地域清掃に取り組んだ。HP は学校行事の取組みについて紹介するとともに部活動の活動状況・実績について掲載した。	①地域での活動について生徒への周知を図り、参加者数を増やしていきたい。  ②HP では生徒が学習の様子や授業紹介なども掲載し更に充実を図っていきたい。	①ボランティアについては、生徒会フロンティアという形で組織があることから、地域としてもイベントの際に協力を依頼しやすい。  ②地域清掃を実施することができてよかった。また HP も充実している。今後は行事の情報などは自治会に直接連絡してもらいたい。	①あーすぷらざと連携して、外国につながるある生徒対象の進路ガイダンスを、適正な時期に開催することができた。また、授業に地域の方が参加するなどの試みも見られた。コロナ禍の影響で縮小したボランティア活動も徐々に増やすことができた。今後も地域との連携をさらに深め、本校の教育活動に活かす必要がある。  ②コロナ禍で行えなかった地域清掃を実施することができた。ホームページの内容の充実を図り、計 153 回内容を更新することができた。今後もホームページを利用して、地域に情報を発信する必要がある。	①外国籍の生徒等、多様な生徒の支援に向けて、地域や外部機関との連携による教育活動の展開に取り組む。  ②生徒会フロンティアを中心に、ボランティア活動や地域との交流に取り組むとともに、ホームページを利用して情報の発信に努める。
5	学校管理 学校運営	①生徒の安全と教育環境を確保し、耐震工事への対応と新校舎の効果的な使用方法を策定する。  ②地域と協働した防災体制づくりと防災教育を推進する。  ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。  ④教員のワークライフバランスを推進するとともに生徒と向き合う時間を確保するため組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①グラウンド改修および体育館周辺工事を安全に進め、生徒の活動場所を確保する。  ②実践的な防災研修を実施する。  ③計画的に事故不祥事防止研修を実施する。  ④ICT を活用した情報共有を進め、作業効率をより一層高める。	①工事を安全に終了させ、その後の環境整備を行う。生徒の ICT 活動が充実するよう、機器の充実と活用の支援を行う。  ②防災備蓄品の管理と防災備品の正しい活用について研修を行う。  ③ヒヤリハットの情報を集め、未然に防ぐために共有や管理を行う。初任者研修において事故・不祥事防止に向けた研修を実施する。  ④授業や会議で使用されるPC 機器を充実させる。Teams の一層の有効活用を図る。	①環境整備を充実させることができたか。一人一台端末の支援ができたか。教場の有効的な活用を支援できたか。  ②実践的な防災訓練や研修を行うことができたか。  ③ヒヤリハットを共有し、未然に事故を防ぐことができたか。  ④職員室のPC などの機器を含め環境を整えることができたか。打ち合わせ等の簡略化を進めることができたか。	①1・2 学年教室へのモニター配備と活用の支援を行った。  ②防災備品の充実とその活用や喫食訓練など職員研修を行った。  ③初任者研修や職員会議などで定期的に不祥事防止研修を実施し、事故に繋がることはなかった。  ④職員用の PC を充実させることで、会議の効率化をはかることができた。	①設備の継続的な保守管理を迅速に行い、生徒の学習環境の充実を図る。  ②防災備品の活用方法など職員の知識と意識を高められるような実践的な研修会の実施を検討する。  ③情報の共有を継続的に行うために、風通しの良い職員関係を築く。不祥事防止に向けた研修会を継続して実施する。  ④職員会議資料などのペーパーレス化を検討していく。	①各教室にモニターの配備が行われ、授業でも、活発に活用されているようである。引き続き必要な環境整備に取り組んでもらいたい。  ②防災について、もしもの時に備えた研修が行われている。地域の防災委員は意欲も高く、生徒への指導や防災グッズの紹介などにぜひ活用してもらいたい。  ③事故防止の研修を行うことができ、大きな事故等なく良かった。忙しい中で恐縮だが、事故防止に努めてもらいたい。  ④一部の会議で、ペーパーレス化が実施されたのは良かった。今後、より多くの業務の中でペーパーレス化や ICT 技術の活用が促されるべきである。	①全ホームルームクラスに大型モニターが設置され、授業等で活用できるようになったが、授業での ICT の有効な活用法については検討が必要である。また、グラウンド改修工事が延期されたため、引き続き授業や部活動の安全な場所の確保において検討が必要である。  ②生徒を対象とした避難訓練や、職員対象の喫食訓練及び防災備品を活用した防災研修を実施した。大規模災害に備えて、今後も定期的に研修を行い、防災に対する意識を高める必要がある。  ③毎月事故・不祥事防止に向けた研修を行うことができた。職員の意識がなおざりにならないよう、研修方法については検討する必要がある。  ④生徒の欠席連絡システムを導入することで、打合せ時の電話対応の軽減を図ることができた。また、一部の会議でペーパーレス化が実現でき、職員の負担を軽減することができた。teams 等を利用して資料や情報の共有化を図る必要がある。	①ICT を活用した研究授業や研修会を実施し、方法を共有する。また、グラウンド工事中の授業や部活動についての協議を進め、安全に活動のできる場所の確保に努める  ②地域と連携した防災訓練計画を進めるとともに、計画的に避難訓練やシェイクアウト訓練を実施する。  ③計画的に事故・不祥事防止研修を実施するとともに、その内容についても検討する。  ④teams を利用した校務の効率化の検討を進める。